

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立新翔高等学校	永石 和
学校所在地		
〒 647 - 0071 tel 0735 (31) 7087 fax 0735 (31) 7870 e-mail		
担当者名	役職名・担当教科	
岩倉 明德	教諭・商業科	
〔学校の概要〕		
<p>本校は、大正6年に新宮町立実業学校（3年制）として開校したことにはじまる。その後、幾度かの校名変更や改称を行い、平成19年4月1日に和歌山県立新翔高等学校となり、現在に及んでいる。かつては、水田に囲まれた立地であったが、時代とともに開発され、現在では、市立医療センターや複合施設であるスーパーセンター等があり、新興住宅地としての側面が強くなっている。</p> <p>本校は、東牟婁地方では唯一の総合学科であり、教養系列・会計系列・ビジネス系列・情報系列・建設技術系列の5系列でスタートして、平成22年度より会計系列を廃止して地域文化系列を設置し、観光・熊野・防災などに関する科目を開講していたが、平成27年度入学生より地域文化系列を廃止し、4系列とするが観光・熊野・防災などの科目は残している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2年生15名 3年生14名	名 職員 2名	世界遺産熊野本宮館 熊野古道
実践研究テーマ		
熊野古道ウォーク・道普請		
実践教科等名	単元名	
観光基礎・観光実務	観光資源の活用と保全について	
〔キーワード〕		
紀伊山地の霊場と参詣道の保全と活用		
〔単元目標〕		
<p>熊野古道を観光資源として捉え、熊野古道の保全と活用のあり方について学び、保全と活用の重要性について生徒が意識することを目標とする。特に、世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」の価値を学び、熊野古道が世界遺産に登録された理由を知ること、地域の魅力を感じ、生徒が愛郷の精神をもつことを期待する。</p> <p>具体的には、観光客が体験する熊野古道ウォークと道普請を実施し、生徒一人ひとりに保全の大切さと、保全と活用の在り方が大切であることを気づかせる。また、道普請を継続的に行うことにより、生徒の理解をより充実したものにしていくことにする。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 9 時間 （「 事前学習 2時間 現地学習 6時間 事後学習 1時間 」 9 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター…世界遺産入門（世界遺産講義） 次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、国内外の世界遺産について基本事項を理解する。 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について学習し、熊野古道の価値を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、担当教諭による国内外の世界遺産について視聴覚教材を用いた授業を行い、生徒が世界遺産とは何かを理解できるように工夫する。 昨年までの生徒が実施した道普請の写真を用い、道普請の事前学習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験で出題し、基礎知識の定着や理解度を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> 熊野本宮館での「世界遺産入門」の講座を受けることで、すでに学習した内容について再確認をするとともに、フィールドワークへの動機付けを行う。 観光客の立場で熊野古道ウォークを行うことで、古道のすばらしさや観光客が求めるものは何かを気付かせる。 道普請を行うことで、道普請の意義を体感する。 複数回熊野古道ウォークを実施することで、道普請の結果を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 熊野三山の魅力を伝える。 道普請を有意義に行えるように、ただ作業するのではなく、有意義なものにするために動機付けする。 ウォークと道普請に際しては、メリハリをつけさせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担ができていないか、協働する力を評価する。 観察力、理解力を評価する。 意欲、関心、態度を総合的に評価する。
3	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークしたことについてまとめのグループワークを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループに分け、事後学習を展開する。その際、ただ生徒同士の話し合いに終わるのではなく、担当教諭による振り返り学習を行った上で、グループワークを行う。 生徒が主体の授業を行うよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協働する意識や力を評価する。
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>《成果》 世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録されて以降、熊野三山や熊野古道を訪れる観光客が増えてきているが、観光振興をすすめる上で景観の保全や観光資源の保全を適切に行う必要がある。観光を優先するあまりに、保全の大切さを生徒が認識しない状況がないようにしなければならない。この点において、次世代育成事業で、「熊野古道の保全と活用」を取り上げて、毎年継続して『道普請』などを体験学習することで、地域を愛する生徒の意識も高まっていると思われる。</p> <p>《課題》 通常授業とは違い実習体験での時間的・場所的制約があるので、他の教科との連携・協力や学校全体の共通理解のもとで実施していく必要がある。また、費用の面から継続していくための予算的措置が必要と思われる。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>事前学習→現地研修→振り返り学習を行うことで、生徒が世界遺産の大切さを実感するとともに、郷土の素晴らしさを再認識することから、ふるさとを思いやる心が芽生えてきた。また、道普請を行うことで、先人たちが行った道普請と自分たちが行う道普請との共通点を実感し、時空をこえた心の交流を体感したことが大変すばらしいことであった。</p> <p>一部の生徒は、熊野古道の大切さ・すばらしさを実感し、自発的・積極的に行動することができていた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>本校観光教育においては、今後とも世界遺産学習は継続していく予定である。具体的には、本宮地域における熊野古道ウォーク及び道普請を継続して学習することで、観光による活性化やふるさと教育につながる世界遺産学習を展開していく。熊野古道ウォークの学習が、他の熊野エリアの学習と一つになり熊野地域全体の活性化を考えることにつながるように、観光教育全体を構成していく必要性を感じる。</p>			

様式 2

平成 28 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

- 対象生徒 地域文化系列の3年生14名、観光基礎選択生2年生15名を対象に、世界遺産学習に取り組んだ。
- 学習状況 事前学習での内容を、確認する機会でもあり、さらに深める内容や新たな学習もできたことで、熊野地方や世界遺産に対する生徒の意識が高まった。
- 学習内容 事前に学習した内容をしっかりと確認しながら活動することができた。
- (1) 現地学習 A. 道普請
B. 参詣道ウォーク (伏拝王子跡～熊野本宮大社)
- (2) 講演 世界遺産入門 (於 和歌山県世界遺産センター)

(1) A. 道普請



<生徒の感想>

- 砂袋がとても重たくて、道を直すのは大変だと思いました。
- 前回より、楽に運べました。しんどかったけど、自然に感謝と力を与えられたと思いました。
- 自分の地域に貢献できて、そして道を通る人を笑顔に出来たのがうれしかったです。重くて大変だったけどとてもすっきりしました。心が軽くなった気がします。

B. 参詣道ウォーク



<生徒の感想>

- とても空気がよく、涼しくずっといたい空間でした。タイムスリップしたかのような気持ちになれました。2時間も歩いたとは思えず、まだまだ歩けそうだと思います。
- 前回も同じ道を歩きましたが、前は道普請からだったので、疲れを感じなくて、楽しく歩くことが出来ました。また歩きたいなと思いました。
- 山道を歩くのは好きなので良かった。所々に話も聞けたし、世界遺産を歩けるのは良い体験になった。足はえらかったが、楽しかった。これからも、山を歩いて行きたい。

(2) 世界遺産入門講演

和歌山県世界遺産センター



<生徒の感想>

- 世界遺産という言葉は知っていたけれどその種類や細かい内容については知らなかったので良い勉強になりました。
- 紀伊山地の霊場と参詣道が自然遺産ではなく文化遺産であることに驚きました。
- 世界遺産がヨーロッパに集中していることや、1000を超える世界遺産があることを知りました。